

八代基次議員

本町文化財の積極的な環境資源化を

問 今秋、馬見丘陵公園で開催される全国都市緑化奈良フェアを起爆剤として文化財活用による観光資源化を。

①新山古墳出土品の里帰り展示を。

②文化財の展示について。

③旅行者と連携し町内周遊ルートの定期化。斑鳩、明日香と提携し一体的な観光ルートの定期化を。

④観光力の強化のために積極的な人的貢献策を考えるべきでは。

平岡町長

①新山古墳の出土品は現在宮内庁所蔵で、そうでなければ国宝・重文にも指定される文化財ですが、本町では防犯、防火が完備された施設がないので至難と思われれますが、町の思いを宮内庁に伝えます。

②緑化フェアに合わせて、「巢山古墳の木製品」を特別展示します。

③以前に斑鳩町（藤木古墳）と本町（牧野古墳）とで連携した実績もあり、この機会に斑鳩町、明日香村と連携し旅行会社に企画提案したいと考えます。

④平成19年から文化財ガイドを組織していますが、更に強化（研修・養成）し、主要な文化財にガイドを配置し、来客者に案内・解説を行います。

大型量販店（イズミヤとカインズ）の現状は

問 (1) ①イズミヤの店舗建設の状況は。

②イズミヤによる町の財政的効果は。

③パート募集の実情はどうか。

④店舗進出による多方面の功罪は。

(2) カインズ進出計画の現状は。

平岡町長

(1) ①本年2月4日、開発完了検査を終え4月下旬の開店を目標に工事中。

②固定資産税、法人町民税等約3,600万円の町税増収及び周辺土地の利用価値の増大、店舗建設等35億円の資本投入による経済的効果あり。町は事務手続き、調整に担当職員の配置で対応、財政的実負担はない。

③約210名程度内定、引き続き50名程度募集中。内80%は広陵町在住とのこと。

④年間160万人の集客を予定。地元農産物、特産品の販売・雇用の促進、非常時の避難、食品の提供等の防災拠点となる。課題は交通量の増加、混雑、また競争激化による中小店舗の影響。

(2) カインズについては、地元地権者、役員に計画の説明と交渉の段階であり、町は今後の動向を見守っている。

青木義勝議員

本町の将来の姿、それへのプロセスは

問 「第4次広陵町総合計画」策定時ゆえ、この質問をします。

①まちづくり懇談会で5人の住民が意見や提案をされた。当局のご感想は。

②本町の施策「農業特区」（新規に農地を一反から購入可能）「区域指定」（調整区域でも指定区域であれば建造が可能）制定による農地の有効活用。裏の現象として農地の減少、農産物減産と両刃の剣ともなる。本町は概ね消費の町であります。現状と成果を。

③4月下旬開店の「イズミヤ」、ホームセンター「カインズ」の寺戸地区への出店計画の状況を把握していれば説明を。在来地域の商店が無くなり空洞化となり、特に高齢者の日常生活に支障をきたします。本町は新興地域の真美ヶ丘地区、在来地域の西・北地区、農業地域の東地区で構成されて日本の縮図的な町です。小学校においてもマンモス校の真美ヶ丘第二小学校、少人数の東小学校と両極端ではあるが、反面、特徴として捉え、地域の特色を生かして、地形的には平坦で高齢者も住みよい「バリアフリーの町」をセールスボ

イントとしてPRをすれば、やり甲斐のあるまちづくりになると思うが当局のお考えは。

平岡町長

①永住のふるさととして本町を選んでいただいた思いを語っていただき、行政の基本は町に活力があり、住みよい環境が保たれ、皆さまに安全で安心できる満足感をもっていただく町づくりにより邁進すべきと思いました。

②農業特区利用者は119名で11万8,000㎡の農地を取得されている。内農業新規参入者24名、約31,319㎡。地域指定利用者は67件で70,057㎡。新規参入者で遊休農地化を防ぐ一方、地域指定により優良農地の無秩序な宅地化の防止に機能している。

③在来地域は地元での日用品の調達に厳しくなり、バス路線も廃止され、それ変わる手段も考え、地域の特色を生かしながら、社会経済情勢の多様化、価値観、ライフスタイルを考慮し、調和のとれた町づくりを進めるため、ご意見を伺い将来に備えた。

